

企画名： 「福島第一原発から30キロ圏～福島県いわき市で考える未来のエネルギー」
実施日時： 2012年1月14日（土）15：00～16：30
実施場所： パシフィコ横浜会議センター 4F 416+417
登壇者： 吉田恵美子（NPO法人ザ・ピープル理事長）
島村守彦（NPO法人インディアン・ヴィレッジ・キャンプ副理事長）
参加人数： 50名
文責： 大澤康泰（NPO法人ふよう土2100事務局）

まず3月11日の東日本大震災、原発事故からのいわき市の被災状況ならびに救援活動、復興支援の様子を説明させていただきました。そして、12月3日（土）いわき市労働福祉会館で開催された「福島で未来のエネルギーを考えるシンポジウム」の成果発表をもとに、これから取り組んでいくプロジェクトの内容や被災地で実施されている代替エネルギーへの取り組みを発表しました。

昨年10月に20K圏内へ一次帰宅した際に撮影した画像を紹介すると、参加者は実際の放射能の線量が50 μ svもある現実に驚かれ20K圏内の動物達が悲惨な状況下で見捨てられていることに、報道では見られない真実に原発の恐ろしさを感じられ、復興に当たっての手段について意見交換や質問が寄せられました。

私たちの故郷、福島のことを応援したいばかりで、実際に活動や支援していただいている方や反対に、何も出来ていないと自分を責める方まで居られました。「福島の方は、怒り憤りのみならず、深い悲しみを抱えているのに、とてもとても気丈に振る舞われ、“やさしさ”に満ちていらっしゃいました」との言葉もかけられました。

